

特色ある取り組みとその成果

1 開かれた学校づくり

①学校長自主プラン推進事業「学校間連携事業の推進」では、小中の教員を対象に工業高校の施設を活用した体験学習（リモコンカーの製作）を実施した。十数名の参加者が本校生徒の指導によりものづくりの素晴らしさや感動を体験し、交流を深めた。また、地元主催のフェスタや公民館祭り等にも作品や体験コーナーとして出展したり学習内容の発表をしたりすることで、日頃の学習内容・成果を地域住民に知ってもらうことができた。

②毎月2回、保護者の協力を得て、MSリーダーズの生徒も加わった登校時の交通安全指導の実施と1限目の授業公開により生徒理解を深める機会とした。進路指導においては面接指導に参加していただき生徒の進路学習の様子を見ていただいた。

③企業、中学校、保護者の皆さんを招いて課題研究発表会を実施し、学習内容や課題への取り組み等について理解してもらった。

④文化祭を公開で実施し、保護者も含め数百名の来校者に学習の成果を披露することができた。

⑤情報発信強化のために、HPの刷新と充実に取り組んだ。

2 就業体験(インターンシップ)の充実

保護者と地元企業の協力により、2年生全員に対し夏季休暇中に3～5日間、就業体験学習を実施した。

3 外部活力の導入

①卒業生による進路体験を聞く会、地元企業経営者による講話

②保護者による講話

③自動車学校の指導員による交通安全講話、警察署での自転車安全運転講習会

④薬剤師や薬物乱用防止指導員など、外部から指導者を招いて保健講話を実施、それぞれ専門的な立場で生徒に直接語りかけてもらい生徒の意識改革を図った。

⑤学校設定科目「法と社会」で、実際の裁判傍聴のあと裁判官の講話を聞いたり弁護士さんの特別授業を受けたりし、生徒の学習意欲の向上を目指した。

⑥専門家による技術指導を受ける機会を設け、ものづくりのレベルアップを図った。外部講師を招いての講習会を持った建築大工3級技能士検定では、本校生徒6名が県下ではじめて受験し、全員合格を果たした。

1. 学校経営

具体的な課題項目	
現状・実践内容・成果等	今後の課題(17年度の重点)
1 学校行事の企画、運営などに生徒が主体的に関わり責任を持って行動できる機会を多くし、自主性を伸ばした。また、学外の各分野の専門家を講師に招き講演を実施した。	1 自ら考え責任を持って行動できる自主的・主体的な生活や学習態度を育み、確かな学力と豊かな人間性を育成する。 2 体験的な学習や外部の教育力を活用して、生徒一

<p>2 体験的な学習を行うのにあたり、外部との連携を強化して地域の行事等に積極的に参加した。このことにより生徒一人一人が自己実現できる機会が増した。</p> <p>3 教員の質が教育の質を決定するという観点から、研修を推奨し、教員一人一人が各自課題を持って毎日の教育活動に向う条件整備と雰囲気作りに努め、意欲的な職員集団作りという点で一步前進した。</p>	<p>人一人が自己実現できるよう援助する。</p> <p>3 地域や学校間連携を推進し、地域や社会の一員として自覚と誇りを持って貢献できる、豊かな人間性を持った人材育成に努める。</p> <p>4 教職員の意識改革、実践的 school 改革、積極的な情報発信など改革を推進する。</p> <p>5 学校の危機管理について組織やマニュアルの見直しと整備を進め、日常及び災害時の安全確保について危機管理体制を確立する。</p> <p>6 学校改革に向けて、教員の研修に力を入れる。</p>
---	---

2. 研修	
具体的な課題項目	指導力の向上と教師としての資質・能力を高める
現状・実践内容・成果等	今後の課題(17年度の重点)
<p>1 授業規律の確立のため、年度はじめに学習姿勢について全職員が統一した指導を実施した。このことにより1年間落ち着いた授業が展開することができた。</p> <p>2 適切な評価の在り方について研修会を持ち、教科ごとに評価規準の作成に取り組んだ。</p> <p>3 公開授業に取り組み、お互いに授業を公開し合う中で、指導力の向上を目指した。また、「生徒による授業評価」も取り入れ、授業改善を図った。</p> <p>4 工業科主催で、長期研修や1年間の研修のまとめや成果を発表しあう全校研修会を行い、研修成果の共有化を図った。</p>	<p>1 学校課題を明確にし、それに対応できる教師の指導力を向上させるため、情報の共有や必要な研修を組織的計画的に進める。</p> <p>2 各教科の専門的知識や技術向上のため、外部講師などによる研修を実施し、実践的力量を向上させる。</p> <p>3 教師としての資質を向上させるため、積極的に地域活動や研修に参加する。</p> <p>4 一人一人が自己啓発のための課題を持ち、指導力を高めたり人間的な幅を広めたりする取り組みをする。</p> <p>5 学校改革を目指し、まず「カリキュラムをどのように改変すべきか」から研究を進める。</p>

3. 教科指導	
具体的な課題項目	基礎・基本の定着とともに自ら学ぶ姿勢を育成する
現状・実践内容・成果等	今後の課題(17年度の重点)
<p>1 1年生の「学習規律向上週間」の取り組みを始め、授業規律の向上に力を入れた結果、生徒の学習に向かう姿勢や意識に向上の跡が見られた。落ち着いた中で、充実した授業が多くできた。</p> <p>2 成績不振の生徒に対しては、学習指導に加え学習習慣の指導を取り入れ、家庭連絡ノートを作るなど、多面的な指導と連携の強化に努めた結果、成果を得ることができた。</p> <p>3 教材研究の充実と指導法の工夫・改善に努め、生徒の能力に合った学習内容を準備し、指導の個別化を進めた。その結果生徒一人一人に目的意識を持ち主体的に学習する姿勢が見られるようになってきた。</p>	<p>1 基礎・基本を定着させるために、実習や実験、体験などを織り交ぜて指導するための指導法と教材研究を推進する。</p> <p>2 指導の個別化を進め、個人の興味・関心、能力にあった指導を推進する。</p> <p>3 目的意識を持ち主体的な学習態度を育成するため、全校体制と地域や地域産業との連携を考える。</p> <p>4 3年間を見越し、出口を明確にした各科のシラバスの作成・完成を目指す。</p> <p>5 基礎学力の定着のための学年やクラスでの取り組み</p>

4 シラバスの作成に着手し、一定の成果を収めてきている。	みを工夫する。さらに、資格取得のための学習も含め、サポートのための組織とシステム作りに力を入れる。
------------------------------	---

4. 生徒指導	
具体的な課題項目	「人間としての生き方なり方」を学校教育の全領域に作用させ、自己教育力を高める
現状・実践内容・成果等	今後の課題(17年度の重点)
<p>1 「遅刻0週間キャンペーン」を年間を通して実施した結果、前年度の約半数までに減少し、クラスあたりの1日平均遅刻数が0.29回に減少し、効果が顕著に表れた。</p> <p>2 各学年で具体的取り組みを設定し「あいさつキャンペーン」（毎朝の生徒・職員による啓発活動）を展開した結果、次第に定着し、求人依頼者・地域住民・保護者から評価を得た。</p> <p>3 月1回、年間5回でPTAクラス委員と職員、さらに今年度はMSリーダーズの生徒も参加して「交通マネー指導」「あいさつ運動」を実施した。保護者からは、「だらしない服装が減った。」「登校時間が昨年と比べ早くなった。」「家庭を離れた子どもの姿が見られた。」などの意見が寄せられた。</p> <p>4 セーフティドライブ推進事業について学校近辺の危険箇所のビデオを作成し、交通安全講話、新入生オリエンテーションに活用し、指導を徹底した。</p> <p>5 「生徒指導だより」を発行し、学校の近況報告やキャンペーンの紹介、行事予定表などを載せ、保護者との連携を密にした。</p> <p>6 問題行動は、昨年度に比べ半減した。</p> <p>7 不審者対策として、特に女子生徒に指導を実施し、防犯ブザー携帯の奨励をし、下校時の時間帯・人通りの多い通学路の選択などを指導した。</p> <p>8 あらゆる機会を捉えて適切な生徒理解に努めるとともに、「学校での居場所の確保」を基本に、積極的な教育相談を実施した。</p>	<p>1 「時間に対するけじめ」指導 「遅刻0週間キャンペーン」の継続指導をして、規律ある基本的生活習慣を再構築する。</p> <p>2 「公私に対するけじめ」指導 「爽やかなあいさつ運動キャンペーン」の生徒による啓発活動の展開。授業規律を確立させる。</p> <p>3 ボランティア活動の積極的参加 学校・地域のボランティア活動に積極的に参加し、「自発性」「公共性」「先駆性」「無償性」などを養う。</p> <p>4 教育相談の充実（子どもの居場所の確保） 積極的教育相談を通して、「自己教育力の向上」「自己存在感の承認」「目的意識の啓発」「受容と共感」などの諸能力を育む。</p> <p>5 生徒主体による諸活動の充実 毎朝の校門指導やボランティア活動、交通安全活動などを生徒主体で実施できるよう支援する。</p> <p>6 問題行動の減少 あらゆる機会を捉えて問題行動の防止・適切指導に努めるとともに、再犯防止指導の徹底を図る。また特別指導の在り方を検討する。</p> <p>7 授業規律の確立 生徒一人一人が自主的に授業に取り組み、学習成果を上げられるように授業規律の確立に努める。また、履修報告書、生徒情報交換会などで一層の生徒理解を深め、適切な支援・援助をする。</p> <p>8 適切な情報収集 不登校・いじめ・欠席がちな生徒などの情報収集を適切に行い、担任・保護者との連携を密にしながら適切な指導に努める。</p>

5. 特別活動	
具体的な課題項目	自主的・実践的活動を推進し、「地域の学校」として地域社会への貢献を目指す
現状・実践内容・成果等	今後の課題(17年度の重点)
1 球技大会・体育大会・文化祭の運営などに生徒がより主体的に参画できるよう、実施方法や形態・運営の仕方等の見直しをした。	1 学校行事の企画・運営や地域行事などにも、生徒が意欲的・主体的に参加しようとする姿勢を育てる。

<p>2 公開LHRを実施し、指導法や企画・運営について研修を深めた。またLHR活動に対して資料など情報提供などの援助を充実した。</p> <p>3 毎月の部長会を第一水曜日に行い、各部活動への所属意識を高めるとともに、「部活動の日」の設定により活動時間を確保し、活動の活性化を図った。</p> <p>4 福祉協力校として、年2回の地域へのボランティア清掃や可児川清掃活動など、その役割を積極的に果たした。また、多発した大雨や地震による被災地・大津波の被災者救援のための募金活動を行い、地域社会福祉協議会へ寄託した。</p>	<p>2 生徒が自主的にLHRの企画・運営に参加できるように、情報提供などの援助をする。</p> <p>3 部活動が人間形成の場であることを認識し、積極的な広報活動により関心を高めるとともに校内で設定した部活動の日の徹底を図る。部の統廃合については、検討する</p> <p>4 ボランティア活動にさらに積極的に取り組ませる中で、地域社会に貢献する喜びを多く味わわせ、自主的・実践的な態度の育成を図る。</p>
--	--

6. 進路指導	
具体的な課題項目	主体的に進路を選択決定できる能力や態度の育成を図る
現状・実践内容・成果等	今後の課題(17年度の重点)
<p>1 就職希望者の進路実現に向けての援助の拡大による不合格者の減少に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接指導の強化（1人2回） ・職場見学後、先輩の派遣票を見て対策を立てる ・見学後の感想を志望動機に反映させる ・会社をよく調査して受験する ・作文の事前指導（国語科の協力） ・基礎学力の補充（学年会による小テストの実施） <p>2 保護者との連携のとれた進路指導の充実に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接指導への協力を依頼（十数名の参加） ・保護者による大学・専門学校の見学会の実施 ・学年別進路ガイダンスへの保護者の参加 <p>3 進路情報の生徒・保護者・職員の共有化に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりを生徒全員・職員に配布した ・保護者向け進路だよりを発行 <p>4 地域・企業との連携による、望ましい勤労観・職業観の育成とガイダンス機能の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業見学の実施（3年生） ・地元企業の社長による講話（1年生） ・インターンシップの全員実施（2年生） ・希望者による工場見学（1・2年生） 	<p>1 進路ガイダンスの充実に務める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に見合ったガイダンスの検討 ・地元企業の方々による講話の実施 <p>2 “自己PRできる”生徒の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習、部活動、資格試験、生徒会活動、ロボット大会、ボランティア活動等の学校生活の色々な分野の中で、一つは自信の持てる活動に向かわせたい <p>3 校内他分掌との関係で、基本的生活習慣の一層の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼儀を身につけさせる（部屋への出入り） ・基礎学力は普通の授業で ・爽やかな挨拶の励行に努める <p>4 進学者への援助を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者対象の面接指導の実施 ・センター試験に備えた体制基盤の強化 ・一般受験での合格に向けた体制をつくる ・小論文の指導体制を確立する <p>5 公務員受験者への援助の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対外模試への参加による意欲の向上

7. 健康・体育	
具体的な課題項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しみ進んで健康で安全な生活を送ろうとする態度を育成する ・望ましい食生活と適度な運動を実践し、生涯にわたり体力向上を図っていく能力を育成する

現状・実践内容・成果等	今後の課題(17年度の重点)
<p>1 薬物乱用防止講話、エイズ・性感染症防止講話等を通し健康づくりへの認識を高めた。インフルエンザも数名の感染報告であった。</p> <p>2 1年生の体育では、集団行動と基礎的・基本的技能の習得に力を入れ、体力の向上を図ることができた。</p> <p>3 2,3年生の選択体育では、課題のリーダーシップを発揮できる者が、少しずつ増えてきた。</p> <p>4 部活動での活躍が目立ち、地区優勝4、2,3位が3と体力・筋力アップの成果が見えてきた。</p> <p>5 トレーニング機器の使用頻度が増え、筋力の向上があらわれてきた。</p> <p>6 安全意識の向上のため、各部の代表者と生徒会役員に対して消防署員による救急処置講習会を実施した。</p> <p>7 新体力テストの結果から、全体的に柔軟性が平均より劣っていることがわかり、対応を検討したい。</p>	<p>1 食生活と運動が日常の健康にいかにか大切か自覚させ実践できる力が身に付くよう指導する。</p> <p>2 1年時の体育では、基礎的・基本的な技能の習得と集団行動の向上・規範意識（ルールを守る）の醸成を図る。</p> <p>3 2,3年生の選択体育では、より力量確かなリーダーの育成を目指す。</p> <p>4 部活動がさらに発展できるように、体育で基礎・基本の理論や発展理論を指導し、その援助をする。</p> <p>5 トレーニング機器の安全な使用のために、定期的な安全点検はもちろんのこと保全・管理を一層徹底する。</p> <p>6 安全意識・技術の向上のため、希望者を募るなど幅を広げて救急処置講習会を実施する。</p> <p>7 体育の授業や部活動で、怪我の防止を含め時間をかけてストレッチを実施するよう指導する。</p>

8. 管理	
具体的な課題項目	・安全で快適な学習環境を作る ・環境学習を推進する
現状・実践内容・成果等	今後の課題(17年度の重点)
<p>1 年2回の総合避難訓練を実施し、安全意識・危機管理意識の高揚に努めた。</p> <p>2 特別活動部と共同で年2回の地域ボランティア清掃を実施し、総数400名を超える多数の生徒が参加した。生徒の意欲も段々と高まってきている。</p> <p>3 毎日の清掃活動の他、全校一斉の特別清掃を実施し、学習環境の美化に努めた。</p> <p>4 農業体験学習を1年生で実施し、昨年同様に作物を作る喜び、収穫の喜びを味わわせることができ、生徒の感性を磨くことができた。</p> <p>5 「破れ窓理論」により、不良箇所や故障には修理の依頼・実施など迅速的確に対応し、環境の保全と維持に力を入れた。 ・安全点検の見直しと毎月の実施 ・暖房器具の取り扱い方法と注意事項の徹底 ・学習環境（黒板、カーテンなど）の推進と整備</p> <p>6 「みんなでとりくむ環境学習支援事業」では、工業科の専門を生かした環境学習に近隣中学校の1年生</p>	<p>1 安全教育、安全指導の徹底と指導内容の充実を図る。</p> <p>2 危機管理のシミュレーション ・総合避難訓練の実施 ・不審者などへの対策マニュアルの徹底</p> <p>3 特別活動部とともに年2回のボランティア清掃の実施・推進・協力</p> <p>4 快適な学習環境の保全・維持のための方策を講じる。 ・全校一斉生徒による全員清掃の実施 ・ワックスがけの徹底と実施 ・不良箇所の点検と修理の依頼・実施 ・毎月の安全点検の徹底</p> <p>5 農業体験の見直し</p> <p>6 環境学習の充実</p> <p>7 工業人としての情操を養ったり、感性を育てられる環境を充実させる。</p>

と一緒に取り組んだ。